

「LPガス国際セミナー2012」の概要

「LP ガス国際セミナー2012」を2月23～24日の両日に亘り、第一ホテル東京(新橋)にて開催致しました。

1. 日時: 平成24年2月23日(木)～24日(金)
2. テーマ: 「変わりつつあるエネルギーフロー ～LPガスの新たな未来に向けて」
3. 招聘先等: 資源エネルギー庁、日本エルピーガス協会、JOGMEC
英国／ポータン・アンド・パートナーズ、世界LPガス協会、英国／クラークソンズ・ガス、
韓国／E1 コーポレーション、アブダビ／ADNOC、中国／ICIS チャイナ、カタール／Tasweeq、
インド／IOC、サウジ・アラムコ、米国／エンタープライズ、
シンガポール／ファクツ・グローバル・エナジー (国内3名、海外11名)
4. 参加者: 約550名(過去最高)
5. 概要 :

冒頭、山崎理事長の開会挨拶に続き、来賓として高原資源エネルギー庁長官の歓迎挨拶を頂きました。

講演は、著名なコンサルタント会社であるポータン・アンド・パートナーズ社による欧米及びアジア市場の LP ガス需給動向及びシェールガス開発状況等に関する基調講演で幕を開けました。

日本側から資源エネルギー庁による日本のLPガス政策に関する講演と、日本LPガス協会による震災復興とLPガスフローに関する講演が行われた後、LPガス産出国を代表してサウジアラビア・カタール・アブダビ、アジアの主要LPガス消費国を代表してインド・中国・韓国からの



講演があり、他にも、海運コンサルタントのクラークソンズ・ガスや世界LPガス協会からも講演がありました。更に、今回のセミナーにおける目玉として2日目には、JOGMEC によるシェールガス開発の現状、米国エンタープライズ社による米国のシェールガス由来の LPG 供給増の可能性、シンガポールのコンサルタント会社であるファクツ・グローバル・エナジー社から石化原料用 LPG の需要動向、についてそれぞれ発表がありました。

本セミナーにおいては、講演終了毎の質疑及び全講演終了後の総括質疑を実施し、世界各国から参加するLPガスに関わる関係者間で、有意義な討議がなされました。

皆様のご支援をもちまして、本セミナーを成功裡に開催することができました。本セミナーにご尽力頂きました関係各位に感謝申し上げます。



なお、今回セミナーとして焦点を当てた「シェールガス由来の LPG」と「PDH を中心とした石化原料用需要」と言う二つのテーマは、今後も注目してゆくべきものと考えており、センターとしても来年 2013 年のセミナーに向けて、引続きフォローしてゆく積もりです。

≪主な講演内容(海外のみ)≫

○基調講演 英国【ポータン・アンド・パートナーズ】

- ① 米国エールガスは国際トレードを一変させた。プロパンの長期海上輸送の板挟みが明るみに出た。
- ② 中国PDH投資は2015年までにプロパンの過剰を消す。2015年には大量の物流で市場のバランスが難しくなる。
- ③ 2008年にはUSガルフが受皿だったが、2011年には北西欧州がプロパンの受皿の役割を果たした。さて今後は。
- ④ 2015年以降、需要が供給と歩調を合わせるならLPGを原料とする石化に投資する必要があるようだ。

○フランス【WLPGA】

- ① 家庭内の灯油・薪の煙で2百万人／年が死亡する。途上国の死因の4位。WHOも解決策としてLPGを推奨する。
- ② WLPGAはエクセプションナル・エナジーをブランド化しクリーンで健康で豊かな世界をもたらすエネルギーとして普及促進中。
- ③ LPGは4兆円産業 2百万人の雇用 30億人の消費者 LNGより高効率 シリンダーは地球を8周する。

○英国【クラークソンズ・ガス】

- ① 新造船が増えず出荷量が伸びる今年市場がタイトになるが年々船腹が大きくなると、一定の所に落ち着く。
- ② 需給の締りを示すファンダメンタルズはアービトラージと地域価格動向も影響を与える。
- ③ 新造船のコストが低いとはいえ、誰が建造し建造費はどう調達するかが問題である

○韓国【E1 コーポレーション】

- ① 2011年の需要プロパン3.5百万トン、ブタン5.1百万トン、合計8.6百万トン。
- ② 2009年が頂点で9.3百万トンから2年で70万トン減少。
- ③ プロパンの家庭業務用は2009年から下降線、ブタンはオートガスに陰り。

○アブダビ【ADNOC】

- ① アブダビのLPG生産: 2007年620万トン 2010年710万トン 2012年940万トン
- ② ADNOC LPG輸出: 2007年390万トン 2009年360万トン 2011年770万トン
- ③ アブダビLPG生産: 2009年610万トン 2011年950万トン 2014年1260万トン

○中国【ICIS チャイナ】

- ① 2011年: 需要 24百万トン
供給: 国産22百万トン(製油所玉8割以上)・輸入2.2百万トン・輸出数十万トン
- ② LPG需要で石化原料のシェアが急伸: 2009年3% 2010年11% 2011年20%
- ③ 2013年以降PDHプロジェクト稼働によりプロパン需要が急増する。

○カタール【タスウィーク】

- ① LPG輸出: 2008年480万トン 2010年1000万トン 2012年1100万トン
アジアが82%

- ② コンデンセート輸出: 2008年105MBL 2010年190MBL 2012年130MBL
(製油所拡張工事による)
- ③ ナフサ輸出: 2011年680万トン 2013年800万トン 2017年1000万トン
分解・改質・ガソリンブレンド使用

○インド【インド石油公社】

- ① 2010年度、インドのLPG消費量は14百万トン、国産9.4百万トン・輸入4.6百万トン。
- ② 農村専門のディーラー、ラジブ・ガンジー・グラミンLPGヴィトラック(GLV)が900設立された。
- ③ 補助金LPG9割、対象外1割。補助金付399ルピー(640円)／Kg、対象外725ルピー(1165円)／Kg。
補助金525円。

○サウジアラビア【サウジアラムコ社】

- ① 2011年生産2300万トン、同輸出770万トン 2012年輸出予想600万トン
- ② CP は、これに代わるフォーミュラが出ないし、顧客が CP ベースで契約してくれる以上継続する。
- ③ 緊急災害時 LP ガス支援基金を100万ドル→ 200万ドルへ増額する。

2日目

○日本【JOGMEC】

- ① シェールガス増産により米国の需給予測が逆転した。消費量の28%を輸入→2035年にはガス純輸出国になる
- ② 米国以外でシェールガス開発はポーランド他欧州諸国、中国、南ア、アルゼンチンで行われている。
- ③ シェールガス増産によりNGL(ガス液)の供給が増加し、天然ガス・LPG輸出供給力が増加する。

○米国【エンタープライズ】

- ① 開発は始まったばかりで、厩大な未開発があり将来何年も継続的に掘削できる。
- ② シェールの成功でNGは採算割れまで価格が下落したが、ウェットガスは依然採算がよい。
- ③ パナマ運河が拡張されるとVLGCの日本航海が25日以下となる。

○シンガポール【ファクツ・グローバル・エナジー】

- ① LPG石化原料 西半球43百万トン(全体1億42百万トン)東半球23百万トン(全体1億6百万トン)
- ② サウジの石化原料はLPGを12百万トン使う。
- ③ 中国のPDHプラントは2016年までに12案件竣工予定で、全体で7.3百万トン規模。プロピレンの1/3は輸入に頼る。

※来年の「LPガス国際セミナー2013」は、平成25年2月28日～3月1日に第一ホテル(新橋)で開催の予定です。

(調査研究部 岩田総括主任研究員)